

ること、慢性疾患があるなど常時注意を要する状態にあることである。

**ベビーシッター利用支援事業負担金について**

**問** どのような方が利用できるのか。また、何人分の利用を見込んだ額か。  
**答** ゼロ歳から2歳児の待機児童の保護者、または保育園等のゼロ歳児クラスに申し込みをせず、1年間育児休業等を満了後、復職する方が利用できる。年度途中で認可保育園に空きがないなどやむを得ない場合のサービスとして想定しており、市の負担分は、3人の待機児童が6か月利用した場合の経費の8分の1を見込んでいます。

**テレビ電話多言語通訳サービス委託料について**

**問** このサービスの内容と活用方法を伺う。

**答** インターネット回線を利用したタブレット端末による13か国語に対応したテレビ電話通訳サービスで、保育所等の入園前の面談や保育の相談など、外国にルーツを持つ児童の保護者と保育士等とのコミュニケーションに使用する。病气、障害アレルギー、宗教食等の確認に活用することにより事故等を防ぐとともに、保育士等の業務負担の軽減も図れる。



▲令和2年度一般会計予算を起立多数で可決

**東福生駅調査委託**

**問** 長年、東福生駅のバリアフリー化を要請してきたが、計画予定とJRとの関係について伺う。  
**答** 令和2年度にJRと調査委託に関する協定を締結し、その後、現地測量、地質調査、既存構造物の調査などを行い、年度内に検討図等を作成する予定。調査結果をもとにJRと今後の進め方の調整を図る。これまでも定期的にJRと協議してきたが、引き続き整備計画の内容等についてもJRと協議を進めていく。

**幼保小中連携事業**

**問** 幼保小中連携事業の「幼保小の円滑な接続・連携研究」について、令和5年度までの全体的なスケジュールと令和2年度のスケジュールを伺う。  
**答** 令和5年度に実施予定の就学前教育、小学校教育の円滑な接続に関する成果発表会に向け、アンケート調査や現状調査、フィードバック、年間計画や活動例、指導方法資料等の作成を順次行う。令和2年度は、現状調査や保護者調査等を行い、それを基に各園にフィードバックを行う。

**古民家管理事務の桜伐根及び植樹委託料について**

**問** 伐根の理由及び伐根植樹のスケジュールを伺う。また、植樹のイベントなどは考えているか。  
**答** 旧ヤマジユウ田村家住宅にある桜は古木で、朽ちている部分や虫害もあるため、市制50周年機会に新しい桜に更新する。植樹は、入梅時や真夏を避け、古民家の解説会等と絡めたような植樹イベントともに行いたい。見栄えがするまでにはある程度の年数を要するが、福生市のシンボルとして伝えていきたい。

**令和2年度 各会計別予算規模** (人口R2.1.1 現在 57,617人)

会計区分	令和2年度予算	前年比(%)	市民1人当たりの額	
一般会計	247億8,000万円	△1.2	43万81円	
特別会計	国民健康保険特別会計	67億113万3千円	△2.4	11万6,305円
	介護保険特別会計	45億442万9千円	3.6	7万8,179円
	後期高齢者医療特別会計	12億7,016万8千円	△0.1	2万2,045円
総合計	372億5,573万円	△0.8	64万6,610円	

**下水道事業会計**

	収入	支出
収益的収支	16億4,610万1千円	14億5,806万円
資本的収支	3億6,110万6千円	9億748万9千円

**討論**

**令和2年度福生市一般会計予算に対する討論**

**■反対**

本予算は、行財政運営の基本的な考え方として、経常収支比率90%台は何ら問題がないのに高すぎるとして、市民サービスや人件費などの経常経費の削減の理由としていること。

子育て支援策では、小・中学生になってからの子育て支援策が弱く、そこを埋める意欲的な事業が組み込まれなかったばかりか、長年実施してきた学校給食牛乳代の3%補助も削減したこと。

地域振興については、市内業者の受注拡大や公契約条例制定に向けた取り組みがないこと。さらに、ふっさ子育てまる得カード事業については、一般市民も参加でき、行政も支援する事業に改善されていないこと。

市民生活を支える地域公共交通網の整備では、市内循環バスに関する事業が組み込まれていないこと。

横田基地問題では、オスプレイが強行配備され、騒音被害が拡大し、横田基地の機能強化が進んでいる中、横田基地の撤去を求め、安全安心な福生市を目指す立場を明確に示さなかったこと。

以上の5点について問題があるため本予算に反対する。

**■賛成**

本予算は、市税等の自主財源の乏しい状況の下を招くことのないよう、特定財源を可能な限り活用し、一般財源からの持ち出しを極力抑えたものとなっている。予算編成の根底には行財政改革の努力が数多く見られ、ネーミングライツの導入による自主財源の確保、受益者負担の適正化、PDC Aサイクルの活用による事業の見直しなど、効果・効率的な行財政運営への意思が確認できる。

事業については、学校給食費の公会計化、台風第19号を踏まえた防災対策事業、市制施行50周年記念事業、東福生駅のバリアフリー化に向けた調査の開始、IT技術の活用をはじめとする外国人対応等の福生市特有の課題への取り組みなどが実施され、また、教育行政においては幼保小中連携事業が進められ、子どもたち一人一人の学びに向かう力や学力向上が図られること、コミュニティ・スクールの指定が完了し、地域との連携を深め教育によるまちづくりが推進されることなどが期待できることから、本予算に賛成する。

本予算は、令和元年度と比較し3億円の減であるが、令和元年度に引き継ぎオリンピック・パラリンピック関連予算や、市制施行50周年記念に関連する事業を盛り込んだ厳しい予算編成であったにもかかわらず、また、枠配分方式による予算編成で事業の見直しを行った

事業の評価によるアクションミーティングにおいて検討された改善内容を、予算に反映させたものや、予算編成における一部の事業では、各部・課のマネジメントによる経常経費の一般財源負担削減を目的として、枠配分方式が導入され、約5千万円の削減を行っており、各部署の事業にその創意工夫の努力が見られ大いに評価できる予算編成となっている。

事業としては、市制施行50周年記念事業、台風第19号の災害対応として災害備蓄品の充実、業務効率を図るためのAI導入等の実証実験、視聴覚障害や外国人と意思疎通のためのタブレット端末の設置、東福生駅のバリアフリー化に向けての調査委託、また、教育行政では、幼保小の円滑な接続・連携の研究や不登校特例校分教室の設置など、予算に積極的改善が見られ、効率的かつ将来的な財政負担のバランスを考慮した予算編成がなされていることから、本予算に賛成する。

本予算は、令和元年度と比較し3億円の減であるが、令和元年度に引き継ぎオリンピック・パラリンピック関連予算や、市制施行50周年記念に関連する事業を盛り込んだ厳しい予算編成であったにもかかわらず、また、枠配分方式による予算編成で事業の見直しを行った

**■賛成**

本予算は子どもたちに光をあてるということ、特に不登校分教室の稼働や、そよかぜ教室の給食提供開始などの不登校対策や、貧困を強いられる市民への対策などが盛り込まれている。また、現在、新型コロナウイルスの問題があるが、タイムリーに対応を迫られる場面が出てくるはずなので、しっかりと対応していただくことをお願いし、本予算に賛成する。

その他の議案に対する討論については、6面に掲載しています。